



11～13公園内の遊歩道などを使って行われたリレーマラソン。各所で競い合う姿が見られました14スタートに合わせて亀居城太鼓の演奏で応援17飲食ブースには、焼きガキのコーナーも出店18レース中もステージでは、バンド演奏197歳から82歳までが出場したレース。最高齢の男性に、司会のゴッホ向井さんがインタビュー。



1大竹駅伝の後継イベントのリレーマラソン。一斉にスタート2男女一緒に楽しめるレース3大人に交じって子どもたちも快走4仮装はちょっと走りにくいかも。



同日開催 ランランふれあいマラソン

リレーマラソンの発走前に行われた「ランランふれあいマラソン」。ファミリーベアの部、小学1～2年生の部、3～4年生の部、5～6年生の部、中学生の部に分かれて実施。親子で仲良く走る姿、泣きながらも完走する幼児の姿もありました。小中学生の激走の様子に沿道から声援が送られます。優勝した大竹小2年の栗原太一くんは「週3～4回の練習の成果が出てうれしい」とよろこびの声。



た。広島市から参加した女性7人のチームは「ボランティアの方たちも多く、おもてなしが良かった。本気の人から子どもたちまでいて楽しい雰囲気です」と満喫している様子。会場には、ゲームコーナーが設けられたり、キッチンカーなども複数出店したりと、観客も楽しめるイベントでした。

初めてとなる「瀬戸内リレーマラソンin大竹」が開催され、54チーム、約460人の市民ランナーが健脚を競いました。競技は、マラソンと同じ42・195kmを1チーム5人から15人で、公園内のコース36周をたすきでつなぐもの。一般の部、職場の部、学校の部でエントリーされ、ユニークな仮装で走ったチームもありました。小西啓二教育長の号砲で一斉スタートすると同時に、亀居城太鼓の演奏がランナーたちの背中を後押しします。日頃のトレーニングの成果を発揮して快走するチーム、マイペースで楽しむチームなどさまざま。たすき渡しの場面では、声援が飛び交いました。

晴海臨海公園

新春、快走、36周

1/7
SUN

5一般の部優勝「大竹クラブ」代表の長谷川和彦さんは「駅伝と違って仲間が近くで応援してくれるのがいい」6職場の部優勝「川澄」7学校の部優勝「宮工クラブ」8カエルのかぶりもので「大竹タクシー」チーム無事帰る。たすきを渡します。



市の公式フェイスブックで、このほかの写真も見ることができます。